

Title	はじめに
Author(s)	西本, 孝一
Citation	木材研究・資料 (1984), 19
Issue Date	1984-11-30
URL	http://hdl.handle.net/2433/51545
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

はじめに

木材研究所長 西 本 孝 一

木材研究所は本年5月19日をもって創立40周年を迎えるにいたりました。木材研究所が、昭和19年に第2次世界大戦の戦局が進むにしたがい、木材研究の重要性が痛感せられ、京都大学に附置された当初は、3研究部門でありすでに国家危急の際でもあって、研究所の新営が不可能で、農学部所属の建物の一部を借用していたのですが、その後宇治キャンパスに研究所の大部分が移り、新しい研究棟も設営され、現在では木材物理、木材化学、木材生物、木質材料、リグニン化学、高耐久性木材開発の6研究部門と、附属施設として木材防腐防虫実験施設が設置され、所員、実験補助者ならびに事務官を合せ49名になってまいりました。さらに製材木工、製紙、繊維板の3試験工場、ファイトロン、材鑑調査室などが新営され、木材に関する総合研究の実を挙げられる体制に着々と整備されつつあります。創立以来40年の間に、我が国唯一の木材専門の研究所として、このように充実してまいりましたことは、文部省当局および本学の数々のご尽力、木材関係の諸機関や研究者などのご理解とご支援のお陰と深く謝意を表するとともに、歴代所長はじめ所員一同の努力と熱意のいたすところと喜びにたえません。

さて、木材と人類とのかかわりあいは、数千年前から今日まで密接につづいているわけですが、木材は生物資源特有の再生可能な資源であり、未来永ごう人類と共存すると思われるものであります。このような木材資源が現在世界的に枯渇し、かつ生産力と消費量とのバランスがくずれようとしています。この現実是非常に重要なことで、森林の地球上におよぼす公益的な働きは今更述べるまでもありませんが、この森林の破壊を今にしてくい止めなければなりません。そのためには、森林育成対策の確立と同時に、木材資源の理想的な高度利用を考えるべき時期にきていると思います。さらに我が国ではその国土の70%が森林で森林王国といわれてきたのですが、現在は需要の60%以上を外材に依存している状況であります。このような状況にあっては、木材資源の総合的かつ高度な加工技術の開発、木材科学の飛躍的發展にまつところ極めて多く、木材研究所の使命と責務の重大さを痛感している次第であります。

本誌19号は創立40周年を記念して、各研究部門教授が“未来の木材科学・歩むべき方向”という大テーマのもとに、日頃考えている研究所のあり方、林産研究の進むべき方向などについて発表するとともに、各研究業績を中心に、研究所の発展のあとを編集したものであります。これを単に歴史的記録としてとどめるだけでなく、木材研究所の過去の反省と将来への希望の礎えとしたいと念願するものであります。おわりに本号の編集出版に努力いただいた関係各位のご協力に衷心より感謝の意を表する次第であります。